



復刊第148号
題字 吉岡弥生

秋色雑観

副会長 白浜光子

一時期は三十八度九分などという病人の高熱時と同じ気温に喘いだ夏も去り、やがて日本列島には錦繡の秋が織りなされることでしょう。会員諸姉にはお元気に日々の仕事に真摯に取り組み社会に貢献しておられることとお喜び申し上げます。

去年の1月の阪神大震災、引き続きのオウムサリン事件と耳目をそばだてる大事件の余塵がまだ燻ったまま、解決は程遠いというのに、今年にはまた、エイズ薬害の究明問題、さらには夏場に入り急浮上した大腸菌O-157による食中毒の多発と、われわれ医療関係者にとってより重大な事象が続出しております。薬害問題としては過去のサリドマイド、キノホルム等の薬害の怖さを、痛みを肝に銘じている筈なのに、またも繰り返される悲惨な事態に眼を掩うだけでなく、医療担当者として厳し

い心構えを常時持つべきであり、たとえば新薬を扱う場合、よくよく検討し、内外の知識を尋ねたうえで、絶対安全との保証が得られなければ先に見送るという慎重さが望まれます。一旦薬害で命を失い、また癒し難い後遺症を負った患者にとってその薬を投与した医者は殺人者と見做されようとも反論の余地がない……生命を預かるといふ無限に重い責任をあらためて痛感いたします。

O-157についてはこの稿が会誌に載る頃には終息して欲しいものですが、日本は現在衛生面では非常に進歩して細菌感染の流行などを考えられないといった自信が一気に破られ、感染源がなかなか突き止められず、社会全体がO-157の跳梁にお手上げとなり、戦々恐々とした状況に追い込まれました。去年から天災、人災、はては病災と戦後五

十年食ってきた平和の夢がいろいろな形で脅かされつつあるような、世紀末的な感慨に耽る思いもいたしますが、ここで心機一転、元氣を出して、女医として、こんな時代だからこそそれぞれの領域において精一杯やり甲斐を持ち生き生きと活躍したいものでございます。

5月に福岡での総会の折り、公開シンポジウム「未来を開く女医の役割」で第一線で活躍中の若い先生方から、仕事と家庭の両立に対する深刻な悩みを吐露され、また6月30日名古屋で「生命しなやかに生きる」との演題で佐藤千代子会長並びに佐藤秩子愛知医大客員教授らの盛大なシンポジウムが開かれましたが、この席上でも男女平等といいながら日本ではまだまだ女性の権利が認められず、職業女性特に女性医師の場合、出産、育児の休暇や早退など他の職種より一層取り難い、一応理解は得られても実際には代行者や経済的な問題など保障が求められない、という現実があります。日本女医学会としてひろくこの問題の解決に歩み寄る道を探るべく、このたび理事会に「女性の基本権利を確立するための委員会(特に女性医師の立場から)」を設け委員会による検討を重ね、改善策を当局に具申し、何とか少しでも良い方向に努力したいと考えております。

8月の始め、青森県支部長の前田慶子先生からお招きを受けて佐藤会長と有名なねぶた祭りを見物して参

もくじ

秋色雑観……………	白浜光子 (1)
〈公開シンポジウム・生命しなやかに生きる〉	
子どもからのシグナル……………	有吉 允子 (2)
睡眠のリズムから見た生活と環境……………	太田 龍朗 (2)
しなやかに生きる……………	佐藤千代子 (3)
熟年後を生きる……………	佐藤 秩子 (4)
〈第15回学術研究助成研究経過報告〉	
RLGS法の法医学的個人同定への応用……………	澤口 彰子 (4)
糖質ステロイドホルモンによるインスリン抵抗性の出現機序解明についての研究……………	山本真由美 (5)
自己免疫性神経疾患のB細胞クロナリテイの検出とその病因的意義に関する研究……………	橋本しをり (5)
第28回日本医学教育学会大会を終えて……………	橋本 葉子 (6)
〈支部だより〉	
第40回青森支部総会を開催して……………	高松 むつ (8)
埼玉支部総会並びに大役をおえて……………	関根 みよ (8)
〈私の大学〉新潟大学医学部……………	辻沢 キヨ (9)
〈第41回日本女医学会総会記念講演〉	
小児外科——最近の進歩……………	水田 祥代 (10)
瀋陽市訪問と長江三峡の旅……………	稲生 襄 (11)
〈短歌〉雑詠……………	中濱 昌子 (11)
○中央アジア地域から寄附のお願い……………	
○国際女医学会から研究助成のお知らせ……………	
理事会議事録……………	
会員動静……………	
編集後記……………	

りました。宵闇の中に、みごとな山車が、大勢の引手と追手に囲まれて...

子どもからのシグナル



名古屋第一赤十字病院 小児科部長 有吉 允子

人が一生をすなやかに生きるためには、成長・発達初期の段階で、両親をはじめとする周囲の大人たちが適切に養育される必要がある。

子どもたちが、健やかに、すなやかに生きられないと感じた時、彼らは何らかのシグナルを発している。

浴衣に袴掛けハチマキ姿で四百名余りの医師会々員や家族従業員を率いて山車の先頭に立たれ、私たちがまで同じいでたちで、「えい、えい、どろ」と提灯を挙げて練り歩き、まさに祭り

生命(いのち)すなやかに生きる

日時：平成8年6月30日午後1時～4時半 会場：あいち女性総合センター「ウイルあいち」名古屋 主催：日本女医会、日本女医会愛知県支部

「虐待児症候群」は愛情遮断症候群に身体的暴行または性的虐待を加えたような病態で、米国で当初は低出生体重児を養育する段階で問題になった。

このように子どもたちが悩みや不安を持つ背景には、子どもを取り巻く環境の変化が深く関わっている。

睡眠のリズムから見た生活と環境



名古屋大学医学部精神科 教授 太田 龍朗

人の睡眠は、覚醒時の活動を支える積極的な生命現象であり、いわば人生を演出する裏舞台とも言えよう。

わけではなく、幼児期から思春期にかけては発達と共に大きく変動し、しかも環境からの影響を著しく受けている可能性が高い。

はじめいわゆる先進国で、この世代の子どもの睡眠に異様な現象が見られるようになった。即ち、睡眠と覚醒のサイクルが社会から求められる時刻と周期に合わないで破綻してきている。

松果体ホルモンのメラトニンが、人でも強い光に反応することが明らかとなっており、人工的な光があふれる中で、次第に宵型化しつつある現代社会の環境が、大きな影響を与えている可能性は否定できない。

しなやかに生きる

公開シンポジウムを開催して



会長 佐藤 千代子

テーマについて

生命(いのち)、それは常にこれに直面している医師にとっても、一般の人にとっても永遠の課題であり、シンポジウム一つで解決されるものではない。

意味では自由にならない、後戻りできないコースを私もヒトは辿っているわけですが、理解や努力によって、いのちを大切に夢をより大きくし、より豊かに生きることが可能であらうと思えます。

生命の誕生から発育、成長、成熟、老化、死へと、戻ることなく、ある

このシンポジウムでは、人生のそれぞれの年代ごとに、医学的な面から、まずスポットをあてて問題の提起をし、続いて一般の方々からの疑問や意見を受けて一緒に考えてゆきたいと思っておりますので多くの

プログラム

子どもからのシグナル

名古屋第一赤十字病院小児科部長 有吉 允子

「要旨」(2頁)

睡眠のリズムから見た生活と環境

名古屋大学医学部精神科教授 太田 龍朗

「要旨」(2頁)

しなやかに生きる

日本女医会会長(内科医師) 佐藤千代子

男も女も四十歳代といえば花の中年です。三十代から徐々に登り坂になり始めた人生は、四十歳代でもっとも輝かしい時期を迎えることになり、とところが四十歳を過ぎる頃から身体が衰えがあらわにあらわれるようになってきます。

女性の四十代はこのほか、人生の転換期となります。思春期と更年期は、女性なら誰でも必ず経験しなければならぬ人生の節目だからです。

に根付いて、こんなにも堂々と活動しておられる会員の御活躍ぶりには、ほんとうに頼もしく嬉しい限りでございます。最後に楽しい話題をトプライベートルな報告をさせていただきます。

子どもの心は母親や父親との関わりを通じて発達するが、その発達にはそれぞれ感受期がある。

子どもは母親や父親との関わりを通じて発達するが、その発達にはそれぞれ感受期がある。

中央アジア地域から寄附のお願い

橋本 葉子

日本女医会は国際女医会に加盟しております。ご存知の如く、国際女医会は八つの地域に分れておりますが、その中に中央アジア地域があります。

一、聴診器

二、スライドプロジェクター、OHP

三、電子タイプライター

四、その他、手術室で使用される機械、器具類

皆さまのところへ、不要となった品物がありましたら、橋本までお送りいただければ幸いです。

宛先住所 千162 東京都新宿区河田町八一

東京女子医科大学 第一生理学教室 橋本 葉子

更年期をすこやかにしなやかに乗りこえてこそ、健康で潑刺とした老年期へつなげることが出来ると思えます。

熟年後を生きる
愛知医科大学加齢医学研究所
客員教授
佐藤 秩子

「要旨」(4頁)
質問・討論
今回、あいち女性総合センター「ウイールあいち」開館を記念し、日本女



熟年後を生きる — 長命と長寿 —

愛知医科大学加齢医学研究所
佐藤 秩子

ヒトの一生は、発育・成熟・老化の過程を経て死へと、一個の受精卵からスタートした時にすでに生物学的には定まってしまうものと考えられている。成熟期に六兆個に達した体細胞数が逐次的に減数して行くのが生物学的な本質的な老化で不可避であるが、この現象は生理的なもので、体全体としては調和がとれている。せい一杯働かせることでそれなりに機能は保たれているもので、避けることの出来る成人病と混同してはならない。医療・社会環境の改善で年平均余命は延び、百歳を超える者の数はこの三十年間に四

医学会愛知県支部が企画、設置して公開シンポジウムを開催した。当日は三百五十人の定員を超過し補助席を入れての盛況であった。

小児期、思春期、熟年期、老年期についてそれぞれの専門家が現在の社会環境を背景に、いま、直面している問題を医学的観点から提言したシンポジウムは、すべての年齢層の出席者に深い感銘を与え、真剣な質問も相つき、閉会の宣言も残念の思いで終了した。

十倍に増加したが、日常生活動作能力の平均値は年々低下してきている。単なる長命では無く、万物の霊長としてのヒトとして自立能力を維持しつつ誇り高く真の長寿を目指したい、と願うのが熟年後の人々の願いである。商業先行の氾濫する雑多な情報に惑わされず、栄養分を十分にとり、飽食を避け、検査値の僅かな高低に一喜一憂することなく、積極的に常に何かをするという、心も体も前向きな姿勢で質の高い一日を送って行きたい。

第15回学術研究助成研究経過報告

RLGS法の法医学的個人同定への応用

— 遺伝的側面への可視化 —

東女医学内支部 澤口 彰子

ゲノム(生物としての必要な情報を決定している遺伝子の総体)上の多数のスポット(座位)について同時に検出する方法はゲノムスキニングと呼ばれるが、Restriction Landmark Scanning (RLGS)法は現存する最も高精度のゲノムスキニング法である。本法はDNAの二次元電気泳動法の一つであり、制限酵素の認識配列をゲノム上のランドマークとして利用する点に特徴がある。

その原理は制限酵素で切断したDNAを直接認識し、電気泳動することによる。第一制限酵素(Not I) kb以上のサイズを生じるもの、Not Iを選択)によつた切断端をラジオアイソトープで標識し、第二制限酵素(数十kbのサイズを生じるもの、Pvu IIを選択)でさらに切断して、薄層アガロースゲル電気泳動法にて一次元分画を行う。一次元分画したDNAを第三制限酵素(10 kb以下のサイズを生じるもの、Pst Iを選択)によってゲル中にて切断し、

ポリアクリルアミドゲル電気泳動法にて二次元分画を行う。本法により得られたスポットはゲノム上の特定の座位を示す。その濃さはゲノムDNAのコピー数を反映し、メンデルの法則で伝達される。

本研究では、遺伝的に近いマウス間と遺伝的に遠いマウス間の各群に對して、おのおのの肝臓からDNAを抽出してRLGS法を適用した。この時求められた多型検出率からマウス系統間の遺伝的距離を評価した。家畜型マウスとして知られるB6及びD2間では、多型出現率は制限酵素の組み合わせを変えても大きく変化しないが、その値も10%強であった。一方、野性型マウスとして知られるM. Spretusと家畜型マウスであるB6との多型出現率は50%強であり、家畜型同士の場合に比べて高いことが認められた。多型出現率について95%信頼区間を求めると、制限酵素の組み合わせを変えたB6とD2間は $p < 0.104$ 、 $p < 0.132$ 、選択した制限酵素によつたB6とD2間

付表:

種族	第1-3制限酵素	総スポット数(a)	多型スポット数(b)	% (b/a)
B6-D2	Not I-EcoRV-Mbo I	2000	236	11.8
B6-D2	Not I-Pvu II-Pst I	1500	201	13.4
M. Spretus-B6	Not I-Pvu II-Pst I	1500	764	50.9

は 0.116 、 $p < 0.152$ 及びM. SpretusとB6間は 0.483 、 $p < 0.357$ であった。

このように、RLGS法によって検出される遺伝子座位は種間内系統間の遺伝的距離を反映していることが推定され、その遺伝的隔たりが判別された。すなわち、RLGS法による種間内系統間多型検出能を利用して、動物の遺伝的側面を可視化することが可能であり、法医学的個人同定への有用性が認められた。

糖質ステロイドホルモンによるインスリン抵抗性の出現機序解明についての研究

岐阜支部 山本 眞由美

はじめに
第15回学術研究助成を賜わり、誠にありがとうございました。助成により行いました研究について、ご報告申し上げます。

研究課題
糖質ステロイドホルモンによるインスリン抵抗性の出現機序解明についてプロテインキナーゼC(PKC)を中心に

研究目的
糖質ステロイドホルモン(グルココルチコイド:GC)過剰状態で、耐糖能低下が生ずることは、日常臨床でしばしば経験されます。この耐糖能異常は、インスリン抵抗性増大が主因とされていますが、その詳細な発症機序はまだ明らかではありません。一方、細胞膜成分のリン脂質や、発癌のプロモーターとして知られるホルモナルエステル(TPA)がプロテインキナーゼC(PKC)を活性化することが明らかとなり、

インシトルリン脂質代謝回転を介する細胞内情報伝達機構での、PKCの役割が近年注目されています。われわれの教室(岐阜大学第三内科)では、既に、インスリン受容体

結合後のインスリン情報伝達機構で、インスリンによってPKCの活性化がおこること、そして、インスリンによる糖輸送能の発現にはPKCの活性化が不可欠であることを報告してまいりました。今回、GCによるインスリン感受性低下機序が、PKCの活性化とどのように関係しているかをGCのPKCに対する作用を中心に検討しました。

方法
遊離脂肪細胞は、ラットの傍精巣脂肪組織をコラゲナーゼ処理して作成しました。
①インスリンによる糖輸送能・脂肪細胞を各種濃度のテキサメザゾン(DEX)またはブレドニゾロン(PSL)とブレインキニクベーションした後、インスリンで刺激し、[3H]-2-デオキシグルコース(DOG)の細胞内への取り込み能を測定しました。
②PKCの酵素活性と免疫活性性・脂肪細胞をDEX、PSLとともに六〇分間までインキニクベート後、細胞質画分と膜画分を採取、各画分のPKC酵素活性を測定しました。各画分のPKC免疫活性は、ウエスタ

ンプロット法によりPKC α , β , γ , δ , ϵ , ζ の抗体を使用して検討しました。
③脂肪細胞のインスリン結合能・DEX、PSLで前処置した後、[125I]標識インスリンと各種濃度の非標識インスリンを加え、脂肪細胞結合[125I]活性を測定しました。
④インスリン受容体自己磷酸化反応・脂肪細胞をDEX、PSLで前処置した後、膜画分を採取し、蛋白質磷酸化反応、および抗チロシンキナーゼ抗体を使用したインスリン受容体チロシンキナーゼ活性をウエスタンブロット法により測定しました。
⑤PKC基質蛋白質磷酸化反応の検討・脂肪細胞より細胞質画分と膜画分を採取し、各画分に、カルシウム存在、非存在下で、リン脂質、DEX、PSL、TPAを添加、蛋白質磷酸化反応を検討しました。
⑥部分精製PKC活性化に対する影響・ラット大脳より部分精製PKCを採取し、[γ - 32 P]ATPとともに、DEX、PSLと、各種濃度のカルシウム条件下に、PKCの活性化変化を検討しました。

結果

GCの前処置により、インスリンによる糖輸送能促進効果は濃度依存性に抑制されました。しかし、GCによる前処置は、インスリンとの結合能やインスリン受容体の自己磷酸化反応に、有意な影響を示しませんでした。GCによる単独刺激が、インスリンやTPAと同様にPKCを

活性化し、さらに、80 kDa、50 kDaの蛋白質(PKCの基質蛋白質)磷酸化、および部分精製PKC活性の増加を惹起しました。

考察

以上の結果より、ラット脂肪細胞で、GCが、リン脂質やTPA同様、単独で、PKCを活性化することが明らかとなりました。この活性化は、PKCのダウンレギュレーションをもたらし、細胞質内PKCが過剰し、インスリン作用の減弱とインスリン感受性の低下が発現するものと考えられました。GCによるインスリン抵抗性のひとつの要因として、GCによるPKCの活性化が、大きな役割を担っていると考えられました。

さいごに
GCによるインスリン抵抗性の発

自己免疫性神経疾患のB細胞クロナリテイの検出とその病因的意義に関する研究

東女医学内支部 橋本 しをり

私は昨年光栄にも第15回学術研究助成をいただき、抗パーキンソン薬および抗リウマチ薬の作用機序における活性化素とアポトーシスの役割についての研究を進めることができました。ここに日本女医学会の諸先輩方々に深く感謝いたします。研究成果については平成8年度の日本神経学会および日本リウマチ学会にて発表

いたしました。日本女医学会のますますのご発展をお祈りいたしますとともに、今後ともよろしく指導のほどお願い申し上げます。

1. L-DOPA(レボドパ)による神経細胞株(PC12)の細胞死における細胞内活性化素の役割
【緒言】自己酸化或いは代謝の過程

論文発表
1. Yamamoto M, Ishizuka T, Kajita K. et al. Acta Sch Med Univ Gifu 43:416-425, 1995.
2. Ishizuka T, Yamamoto M, Nagashima T. et al. Metabolism 44: 298-306, 1995.
3. Kajita K, Ishizuka T, Yamamoto M. et al. Peptide Hormones in Pancreas 15 (Biochemical Research Foundation): 70-74, 1995.

で生じる活性酸素により、L-DOPAはPC12細胞にアポトーシスを誘導する。今回われわれは、L-DOPAによるPC12細胞死に伴う細胞内活性酸素量の変化を経時的に測定した。

【方法】細胞内のH₂O₂とスーパーオキシドは、2,7-dichlorofluorescein diacetateおよびhydroethidineを用いてフローサイトメーターにより測定した。

アポトーシスの指標であるsubdiploid peakはPropidium iodide染色により検出した。

【結果】L-DOPAは濃度依存性にPC12の増殖を抑制し、高濃度で八〜二十四時間後にアポトーシスによる細胞死を誘導した。細胞死に先立ち、L-DOPA添加二時間後に細胞内H₂O₂は見かけ上減少し、四時間後にはスーパーオキシド量が増大した。細胞内H₂O₂の減少はカタラーゼにより検出した。

ゼにより回復されるので、L-DOPAはH₂O₂を除去したのではなく、細胞膜透過性を亢進させたものと考えられる。L-DOPAを37°Cで二十四時間処理し自己酸化させておくと、細胞毒性はより低濃度で出現した。

【結論】L-DOPAは活性酸素を介して細胞障害性を発揮するので、antioxidantの併用により細胞毒性を回避できる可能性がある。

ニ、ブシラミン(リチル)による単球細胞株(THP-1)のアポトーシス誘導における活性酸素の役割

【目的】ブシラミンは銅イオン存在下で過酸化水素産生を介して細胞増殖を抑制する。今回さらに高濃度のブシラミンによる細胞死を検討した。

【方法】「H₂O₂」を銅イオン及びブシラミンと共に培養した後、フローサイトメーターを用いて、生細胞数

第28回日本医学教育学会を終えて

常任理事 橋本 葉子

(大会実行副委員長・東京女子医科大学学長代行)

第28回日本医学教育学会大会は東京女子医科大学が担当で、去る7月18日(水)・19日(木)の両日、東京女子医科大学において開催された。大会の基調テーマは「特色ある医学教育の実践と展開」であった。大会長講演

「教育の質」、シンポジウム「統合教育の実践」、パネルディスカッションI「二世紀に望まれる女性医師像」、パネルディスカッションII「テュートリアル教育におけるフェロウの在り方とその養成」、ワークショップ「人間関係・態度教育の現状と将来」という特別セッションの他に、要演「分子生物学教育における実習」、「国際協力」、「地域医療」、「チーム医療」及び一般演題計七五題が発表された。二日間の参加者は五〇〇名以上を数え、今までにない盛大な大会となった。

本大会の大会長であった東京女子医科大学「吉岡守正」学長がこの大会を目前にして急逝されたが、お亡くなりになる四日前に大会長講演「教育の質」についてビデオに収録しておられ、学長のご遺影が見守る

中、学長の原稿通りに編集し上映することが出来た。学長は、教育の重要な要素として、「決定的なのはカリキュラムではなく、学生と教師の触れ合いである」ことを指摘なさり、また評価は「学識だけではなく、技能、態度など種々な能力を総合して判定しなければならぬ」と説かれた。学長のお人柄が偲ばれる感動的なビデオであった。

特別セッションはそれぞれに立派な成果を上げることが出来たが、パネルディスカッションI「二世紀に望まれる女性医師像」には、パネリストとして日本女医学会会長の佐藤千代子先生にもご提言を頂戴したので、特にご紹介する。パネルの構成は下記の通りである。

司会・安達恵美子(千葉大学・医学部・眼科学教授)

橋本 葉子(東京女子医科大学・第一生理学教授)

①女医の現状から未来へ(アンケート報告)

田中 朱美(東京女子医科大学・精神医学教授)

②教育現場からの提言

安達恵美子(千葉大学・医学部・眼科学教授)

溝口 秀昭(東京女子医科大学・血液内科教授・学生部長)

③医療現場からの提言

佐藤千代子(日本女医学会会長)

藤枝 知子(東京女子医科大学・看護部長)

松枝 啓(国立国際医療センター・消化器科長)

いる人は男女ともに50%以上、改善するには女性自身も甘えないこと、職場の男性の意識改革が必要等が上位を占めていた。

(3)保育施設への希望は男女とも、時間延長、病児保育、0歳児保育、二十四時間保育の順であった。

(4)家庭環境の調査で、産休をほとんど取らなかった女性医師は15・9%、育児休暇を取らなかった女性医師は78・0%とまだまだ育児休暇は取りにくい環境のようである。

(5)将来について、開業医の中で六

十五〜七十歳まで医業を続けるという希望者は女性医師では計34%、男性医師では45%と多い反面、生涯現役を希望する医師も女性24・8%、男性23・3%と多い。保険医の定年制が論じられている今日、この数字は何を意味しているか見るべきなのであろうか?

(6)女性医師が医業を続けてこれられた最大の秘訣は、医療に対する情熱・意欲が35・3%、家族の理解が25・4%と上位を占めていた。

(7)東京女子医科大学に勤務している男性医師の女子医大勤務の同僚としての女性医師について、男女差はない、女性のメリットを生かしている等の意見があった反面、医療に対する考え方が甘い、プロ意識がない、プライドが高く、コメディカルや出張先の病院とトラブルを起こしやすい、感情的な女医が多いなど厳しい意見もあった。

以上の結果は、女性医師として生涯社会に貢献するには、本人の意欲・情熱が最大の要素ではあるが、やはり家族の支援がなければ女医の仕事は続けられないことを示している。我々はこれらの結果を踏まえ、二一世紀の医療を支持する立場から、育児を中心とする家庭環境の整備、女性医師が働く職場環境の整備及びシステム作りが緊急かつ重要な課題であることを改めて認識した。

②教育現場からの提言について、安達、溝口両教授とも医学部学生の女性の占める割合が30%を越えている

③国立病院に勤務される松枝医師からは、現在の女性医師は「Professional goal」への到達意欲及び努力が希薄である。④客観的思考の不足、⑤決断力・瞬発力の不足、⑥危機感解るような信頼感のある医師であって

このパネルは合計三時間にわたって行われたが、時間はあっという間に過ぎてしまった。教育現場から、医療現場から、患者さんの立場から、女性医師に対する提言が為されたが、これらは医師全体への提言でもある。二一世紀の医師過剰時代に女性医師が生き残るためには、このパネリストの方々がそれぞれの立場で提言されたことを深く噛みしめて、女性の特性を生かした女性医師について、これを機会にもう一度じっくり考えてみようではありませんか?

日本女医学会は「女性の基本権利を確立するための委員会」特に女性医師の立場から」の設立を決定した。女性医師のみならず、プロフェッショナルな職業に従事している女性の基本権利を確立するため、これから大いにがんばりましょう。



③国立病院に勤務される松枝医師からは、現在の女性医師は「Professional goal」への到達意欲及び努力が希薄である。④客観的思考の不足、⑤決断力・瞬発力の不足、⑥危機感解るような信頼感のある医師であって

③国立病院に勤務される松枝医師からは、現在の女性医師は「Professional goal」への到達意欲及び努力が希薄である。④客観的思考の不足、⑤決断力・瞬発力の不足、⑥危機感解るような信頼感のある医師であって

③国立病院に勤務される松枝医師からは、現在の女性医師は「Professional goal」への到達意欲及び努力が希薄である。④客観的思考の不足、⑤決断力・瞬発力の不足、⑥危機感解るような信頼感のある医師であって

③国立病院に勤務される松枝医師からは、現在の女性医師は「Professional goal」への到達意欲及び努力が希薄である。④客観的思考の不足、⑤決断力・瞬発力の不足、⑥危機感解るような信頼感のある医師であって

＊お詫び＊

本誌前号(一四七号)七頁の「学術研究助成を授与されて」の項で、船坂陽子先生と川村隆枝先生の顔写真が入れ違っておりました。まことに不注意なことで、申し訳ないことですが、両先生をはじめ、ご迷惑をおかけしました先生方に心からお詫び申しあげます。

制作担当・榎金剛出版



③国立病院に勤務される松枝医師からは、現在の女性医師は「Professional goal」への到達意欲及び努力が希薄である。④客観的思考の不足、⑤決断力・瞬発力の不足、⑥危機感解るような信頼感のある医師であって

③国立病院に勤務される松枝医師からは、現在の女性医師は「Professional goal」への到達意欲及び努力が希薄である。④客観的思考の不足、⑤決断力・瞬発力の不足、⑥危機感解るような信頼感のある医師であって

③国立病院に勤務される松枝医師からは、現在の女性医師は「Professional goal」への到達意欲及び努力が希薄である。④客観的思考の不足、⑤決断力・瞬発力の不足、⑥危機感解るような信頼感のある医師であって

③国立病院に勤務される松枝医師からは、現在の女性医師は「Professional goal」への到達意欲及び努力が希薄である。④客観的思考の不足、⑤決断力・瞬発力の不足、⑥危機感解るような信頼感のある医師であって

支部だより

第40回青森支部総会を開催して

青森支部 高松むつ



平成8年度の支部総会は7月14日 11時30分よりシテイ弘前ホテルにお

埼玉支部総会並びに大役をおえて

埼玉支部 関根みよ

講事は前田慶子先生を議長として 進行いたしました。その中で、八戸

した。ご年配の方、お若い方それぞ れの人生観、人間関係など気楽に語

お礼、さらに役員の一部交替の挨拶、 記念品贈呈で終わりました。

私の大学【新潟大学医学部】

神奈川支部 辻沢キヨ

それからこれは、私事ですが、私 は今回の総会で任務完了いたしました

ご指導ご協力と共に築いたこの十年 だったのです。さらに本部のご助成

塚掘りの作業もありました。教科書 がない、標本がない、掛図もない、

24年の春、かなり唐突に私は新潟 医科大学の附属専門部へ編入して

激でした。新大の医学部となってか らは女子学生に大きく門が開かれ

私が医学の勉強を始めましたのは、 今から約五十年前で、日本が戦争の

長の八木精一先生(薬理学)が兼任 され、新潟医科大学名誉教授の宮路

その他で合格しなければ廃校との事 で、先生生徒一丸となって何とか存

当時の学長は皮膚科の橋本喬教授 で、内科の鳥飼教授、桂教授、外科

合った女子学生四人で、病理の赤崎 教授に夏休中に病理の標本を勉強に

昭和20年の春、私は福島県立女子 医学専門学校に合格しました

4月からスタートする筈の新学期 が、宿舍の食糧不足のために自宅待

三期生で打ち切りとなり福島県立医科 大学がスタートしました。私たちの

国際女医会(MWIA)を通じてAUW (American Association of University Women) Education Foundationから1967年から

National Coordinator of International Fellow-Ship募集案内がまいりました。

昭和19年に創設された学校でした。 諸物資乏乏の時、校舎は福島市郊

が、宿舎の食糧不足のために自宅待 機となり、実際に入学したのは7月

入学者が放課後テニスのラケットを抱 えてのびのびと学生生活を謳歌して

国際女医会から研究助成のお知らせ National Coordinator of International Fellow-Ship募集案内がまいりました。

のFellow-Shipはアメリカ人以外の研究者がアメリカで研究す ることに対して与えられる研究助成で一五、一六〇ドルです。

ことなど、懐かしく思い出されます。新しく出来たインスタン制度で、卒業後一年間附属病院の各科を廻り、眼科を専攻したいと思いました。32年に結婚して上京するまで、三國眼科に在局しました。当時はまだ旧建物で、板張りの床と板張りの廊下で、もちろんヒーターもクーラーもない時代で、夏には窓を開け放つて涼風を入れながら汗を拭き拭き予診を取ったりしたものでした。

福島女子医専も新潟の附属専門部も、昔の面影はまったく消滅しました。それぞれに立派な建物となって、新しい医学を修得した方々が多方面で活躍しておられます。年ごとに女性の進出がめざましくなっており、ちなみに新大医学部の第一回卒業生は九八名中女性性は二名(2%)であったものが、平成8年度では一〇六名の卒業生のうち女性性は二三名(21%)の由です。

福島医科大学の現況は、日本女医学会二二五号(平成3年1月号)にご報告がありましたので省かせていただきます。特殊な時代に遭遇して変わった体験をいたしました。あの時代に学ばれた方々には他にもいろいろと苦勞をなさった方がいらつしやるのではないかと思います。薄れかけた記憶をたどりながら思い出すままに書いてみました。

第41回日本女医学会定時総会記念講演

小児外科—最近の進歩

九州大学医学部小児外科学教室

教授 水田 祥代

小児外科学とは、脳神経、眼、耳鼻咽喉、心大血管、骨を除く領域の小児の外科的疾患を広く扱う学問であり、いわば小児の一般外科学ともいえるものである。従来、診療対象は十五歳未満とされていたが、近年の産科領域における胎児期の各種診断法の進歩発展により、機能的および形態的異常の多くが胎児期に診断され、治療の対象となること、また、小児外科特有の疾患の治療後のフォローアップや診療継続の必要により、次第に診療対象の年齢が高くなり、現在は胎児から思春期の患者さんを対象としている。

今回の講演では小児外科の最近の

秘のベールに包まれていた胎児の情報、かなりの正確さをもって得られるようになった。自験例でみると1976年から1995年末までに当科で治療を受けた五四四例の新生児外科患児のうち一八四例(33.8%)が出生前に診断され、その主なものは消化管閉塞、腎尿路系異常、卵巣嚢腫、腹壁異常、横隔膜ヘルニアなどである。出生前診断例の多くは出生前に小児外科治療が可能に施設に母体搬送され、小児外科医の立ち合いの下に出生後、出生直後から適切な治療が開始されるために、治療成績の向上をもたらした。しかし一方では、出生前に診断されても胎内で病態が進行し、出生後の治療では救命困難な症例や、経過中に胎内で死亡する症例なども存在することが分かってきた。このような症例の中には、染色体異常や他の重症奇形を合併し、現在の医療では治療不可能なものも含まれるが、不可逆的障害を生じる前に、胎児期に治療する

ことにより救命可能な症例もあり、胎児治療が注目されている。

2、胎児治療の現状と将来

胎児治療とは出生後の治療では生存在不可能な疾患を対象に子宮内の胎児に対して種々の手段によって治療を加えることであり、大別して二つの方法がある。一つは経母体的あるいは羊水腔に薬物を投与することによって胎児を治療する内科的治療法と、臍帯静脈から直接胎児に薬物を投与したり、胎児への直接穿刺術や子宮内シヤント術を施行する方法や子宮を切開し直視下に胎児の手術を行う外科的治療法である。1963年に「L」が血液型不適合妊娠による胎児赤芽球症に対して胎児輸血を行って以来、内科的疾患では比較的良好な成績があげられている。外科的治療は1970年代後半から1980年代にアメリカを中心に多くの動物実験が行われ、1990年以降幾つかの臨床例での報告が行われている。しかし、胎内治療の進歩発展とともに、これに伴うリスクや医療費の問題などが新たな課題としてクローズアップされている。すなわち、胎児手術は胎児が子宮内で手術

第10回ワークショップのお知らせ

日時 平成8年11月30日(土) 午後4時半〜6時半
場所 京王プラザホテル・4F「宴」
(東京都新宿区西新宿2-2-1)
テーマ 私の研修時代を語る
*多数の参加をお待ちしております。 学術部

を受けた後一定期間以上子宮内で生育し、その間に原疾患が治癒に向うことを期待して開発された治療法である。したがって、子宮内手術後も妊娠の継続は必要不可欠なことであり、そのために正確な診断法の確立はいまでもなく、子宮切開法、閉鎖法をはじめ、可能な限り侵襲性の低い術式の開発や、胎児手術前後における胎児—母体の管理法などの開発が不可欠である。現在、母体—胎児への侵襲性の低い手術法の一つとして内視鏡下手術法や、分娩時胎盤循環持下手術法などの開発も進んでいる。また、胎児治療を行うためにはハードならびにソフト面での整備が必要で、アメリカでは胎児治療センターの整備をはじめ小児外科医、産科医、新生児科医、麻酔科医などの専門医や専門の看護婦などによるチーム医療体制や両親の精神的、経済的支援も確立している。

わが国で今後胎児外科が医療として成立するためには、倫理的な問題を含めて胎児に対する医療行為の位置付けや胎児および母体の安全性に関する技術的諸問題の解決、胎児医療センターの整備などが不可欠である。

瀋陽市訪問と長江三峡の旅

神奈川支部 稲生 襄



中国東北の瀋陽市(旧奉天)と川崎市友好都市提携十五周年記念として、同市訪問と長江三峡の旅を川崎市が計画、募集に応じて参加した。96年(平成8年)7月17日から26日までの十日間の旅であった。

本年6月から韓国上空を飛べるようになったとのことで、成田から日

本海へ出てソウル上空経由、四時間十五分で北京へ到着した。北京は雨降りであったが、故宮をいよいよ見て、天安門広場はバスで通過、再び空路約一時間で瀋陽に到着した。瀋陽では少年宮や自由市場をみた後、ホテルに入り、翌日市長さんの歓迎パーティーで懇親を深めた。

瀋陽で三泊した。故宮や北陵公園(昭陵)などを観光したが、何としても印象的であったのは、九・一八事変博物館と大和ホテルであった。前者は1931年9月18日の出来事(日支事変勃発のきっかけをつくった)を記念して、69年につくった本碑(中国式カレンターの形)である。「勿忘国恥」の碑文が生々しい。後者は七十年前に日本人によって建設された重厚なすばらしいホテルである。中に入ると天井は高く、冬は寒いのではないかと思ったが、今でもそのまま使用されている由。

7月20日、重慶へ飛ぶ(三時間)。この地は抗日戦争中は蒋介石の国民党臨時政府がおかれた地で、年配者にはまことに感慨深い所である。三峡下りの船はここから出発する。97年4月から、北京、上海、天津と並んで、重慶は直轄市となる由である。坂道が多いので自転車は少なく、オートバイが多い。大変に暑い所で、南京、武漢とともに「三大かまど」といわれている。

7月21日、豪華客船巴山号にて二泊三日の三峡下りの旅へ出発する。

長江三峡とは四川省の奉節から湖北省宜昌までの一九八キロ。三峡ダムが建設されつつあるが、ダムが完成すれば水位が一〇〇メートル上るため、今のような雄大な大自然の山水画廊の壮観な風景は見られなくなる。

途中、豊都にて下船し、鬼城を見。また巫山にて小舟に乗り換え、

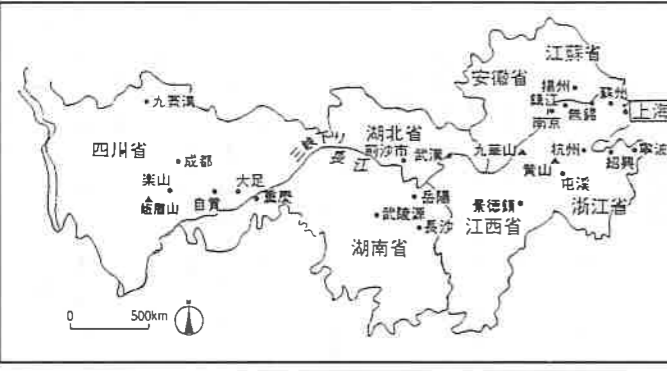
雑詠

神奈川支部 中濱昌子

チエチエンに空しき砲撃響くといふ死に行くは常に名もなき人ら
今寿過ぎし唄の綴る恋文のみづみづしかり天に届くや
(恋文募集に応募し当選したもので若くして戦死した亡夫に宛てたもの)

春は菜の花秋はコスモス咲く丘に今あるはただ熱き風のみ
頭を寄せて戦略ねりし地下壕も哀れ自決の弾の痕のみ
(沖縄の旧海軍司令部跡にて)

ハンモックに横たはり聴くハワイアン背なを過ぎゆく風は爽やか
ポリネシアの夜空に高鳴る太鼓の音やがて淋しき調べとなりぬ
夕映えの色薄れゆき二日月暮れやすき秋の帰路を急ぎぬ
のびやかに草喰む羊の親子あり六甲牧場に秋の色濃く
ベイブリッジに飛び交ふ鷗秋の陽を羽先に受けて時に輝く
小波のたつ川の面に鷗一羽入り日を浴びて憩ひてゐたり



「小三峡」を観る。今までの長江は黄土色の濁流であったが、ここは青色の清流を楽しめる。

巴山号では、乗船下船の際、船長の歓迎レセプション、お別れパーティーなどがあり、また夜はダンスパーティーや民族芸能の催しなどもあり、十分楽しめた。

7月23日、沙市にて船を下り、荊州へ移動して一泊する。

7月24日、ホテル発、武漢へ向う。二〇三キロ(四時間)。武漢とは漢口、武昌、漢陽の総称である。孫文の活躍した所で、武漢大学ははじめ五十七の大学がある。洪水にはたびたび見舞われるそうである。

7月25日、東湖公園や黄鶴樓をみて、上海へ向う。上海では豫園だけをいよいよ見て、ホテルへ向う。

7月26日、ホテル発、空港にて昼食をとり、日航792便にて成田へ。長崎から瀬戸内海を通過して、二時間半で到着した。

(余録)

◇三食とも中国料理なので、馴れないうちは、嘔吐や下痢に次々となり、瀋陽だけで帰国した夫妻もあった。私が持参した胃腸への抗生剤(ホスミン)は、何人かの人々に奏効したとはなによりであった。

◇中国の略字はまったく分らない。むしろ英語の説明のほうがよくわかり、無用と思った英語辞書がたいへん役に立った。

阪神淡路大震災の医療援助に対し

厚生大臣より本会に感謝状



感謝状

社団法人日本女医学会殿

貴団体は阪神淡路大震災に際し、積極的な医療保護活動を行い、被災者の方々の支援に多大な尽力をされました。ここに心から感謝を申し上げます。平成八年八月二十日。厚生大臣 菅直人

昨年、阪神淡路大震災の際には本会も精一杯の救援活動を展開した。その詳細は本誌第一四二号で報告したとおりである。

このほど、阪神淡路大震災の被災者に対し、医療保健に関する援助活動の顕著な団体に、厚生大臣より感謝状が授与された。本会を含めて、二十三団体であった。

平成8年10月25日、東京・法曹会館において授与式が行われ、本会より白浜光子副会長が出席し、上掲の感謝状を受領した。

る事を検討中。

加藤理事

会員動静

入会会員(敬称略)

- 北海道支部 福島順子
- 福島支部 田中里香
- 神奈川支部 周明珠
- 葛飾支部 加藤満利子
- 大阪第2支部 生方雪子
- 川村くに

- 大阪第6支部 河野陽子
- 大阪第7支部 名村章子
- 大阪第8支部 長野礼子
- 福岡支部 奥野徹子
- 長崎支部 柿添由美子
- 退会者 五名
- 物故者(敬称略)
- 岡山支部 折橋秋子
- 愛媛支部 吉良昌子
- 佐賀支部 吉岡ソノ

集記

編後

猛暑の中アトランタオリンピックをテレビで観戦、大変楽しい思いをした。一方、今夏は0・157にふりまわされた感ありであったが、直面された堺市その他の方々は、どんなにか心痛だったことと、たまらない毎日であった。次々に来る情報を手に、根源はどこなりやと詮索するも、九月未現在未だはつきりしないのは不可解の限りだ。エイズ被害事件も私も医療関係者には人事とは思われないことである。

さて本号は、頁数の少ない割には内容が充実し、読み甲斐のある号となった。お忙しいなかをご寄稿いただいた諸先生方に深謝申し上げる次第である。

水田祥代先生のご講演はほんの一部だけで、折があればさらに連載していただけたらと勝手に思っている。本学会会長佐藤千代子先生が主宰さ

理事会議事録

日時：平成8年4月27日(土)

午後3時30分

場所：京王プラザホテル

出席者：佐藤、白浜、中濱、野澤、青井、石原、佐々木、野本、橋川、平敷、松井、丸茂、大坪、加藤、佐伯、清水、田中、西嶋、久田、宮原、吉崎、南雲、野呂、藤岡

(以上24名)

欠席者：稲生、栗原、佐野、橋本、大澤、川田、鹿田、松本、村田、山本 (以上10名)

3月理事会の議事録を承認。議事検討事項

一、庶務報告

久田理事

別紙どおり報告、承認される。

二、会計報告

青井常任理事

平成8年3月分収支別紙どおり報告、承認される。

三、各部報告

【学術部】

平敷常任理事

・計画中のワークショップについての報告。

【広報部】

佐伯理事

・第146号会誌、5月10日頃に発送予定。

・「支部だより」など内容の充実を図

以上

副会長(庶務部担当) 白浜

石原、橋川、久田

平成8年10月20日 印刷
平成8年10月25日 発行
編集人 稲生 襄
発行人 日本女医学会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-17 青山宮野ビル
社団法人 日本女医学会
☎三九九八-〇五七一
FAX 三四九八-八七六九
制作 東京都文京区水道1-5-16
株式会社 金剛出版